

3月21日（月）2日目 釜石へ

（坂本賢）

おはようございます。

そろそろ、出発です。

本日は、救護所のサポート。

その後（夕方）、大船渡へ移動します。

（藤田雄太）

朝5時半起床、体調が優れない。実は20日の夕方から気分が悪く、食欲がわかなかったのである。

皆に心配をかけながらも、昨日に引き続き撮影と納品書作成を中心活動した。午後は坂本先生に同行し、昨日の道中に見かけた消防団の状況確認に出かけた。そこでは、物が手に入りにくい状況だったので、我々が運んできた物資の大半を消防団の人たちにお渡しした。彼らは非常に助かると嬉しそうに仰ったので、その場面がすごく印象的であった。

ただ、直接被災を受けた地域よりも、建物が壊れていないような地域の方が生活に困っているのだな、と思い知らされた。



（早川洋輔）

東和町を早朝に出発。昨日と同じ小学校での支援となる。

介護士募集のピラで申し入れをし、介護のボランティア員としてトイレ介助を行った。

要介護者は人数の割に少ない。

介助が必要になると、家族が慣れない手つきでやっていた。

家族がいても、家の片付けなどで一人残される人は少なくない。

身寄りのない方は一人いるボランティア介護員の巡回を待ち、排泄している。

オムツも選べる状況じゃなく、サイズが違っていても我慢しなければならない状況。立位のとれる、また杖歩行が出来ているにも関わらずテープ止めを使い、

介護量を増やしてしまっている人もいた。

ポータブルトイレは廊下の一角に設置され自由に使用が出来る。しかし使用後の汚物は入ったままになっていることが。また複数での使用になることから衛生面の心配があり、今日一日は私の方で都度片付けをし、座面の殺菌を行った。

ボランティア介護員は現在仕事が自宅待機ということでの参加だが、この方がいなくなったら要介助者はどうなるのか。

介護員がいないことでトイレには行けず、集団の中で失禁をしてしまう可能性だってありえる。

それにより本人は落ち込み、衛生面も悪くなるという悪循環を生む事になるだろう。それを防ぐ為にも介護員は必須で、トイレ誘導や体位変換といった介護の他にも、介護を必要としない人の話しの聞き手にもなる大きな意味での介護が重要されるだろう。



(坂本賢)

本日終了。釜石で宿を確保していただきました。食事はありませんが、お風呂があります。嬉しい！みんな、今日もお疲れ様です。

(坂本賢)

本日、終了。藤田くんは既に2時間。早川くんは2分でいびきをしています。今回の支援について、いろいろな話でもりあがってます。



(中嶋優太)

3月21日(月) 21:10

天気:小雨

気温:6℃

体調:咽頭痛減、鼻炎症状あり

大学の後輩に会った。  
たくましく、立派だった。

今日は昨日と同じ小学校での薬局業務。  
業務の効率化と  
薬剤の絞り込み、  
働いている薬剤師の勤務体制を考える必要がある。

一週間もたつと水が通り、仮設の風呂もでき、救援物資も安定して届くようになった。

栄養的にも衛生的にも以前よりは改善していこう。

逆に、慣れない環境で休みなしで働く人は、一週間もすれば当然のことながら疲弊が見えてくるはずだ。

現地にいた病院の医療派遣チームは、4日単位でローテーションを組んでいるようで、4日後には別の地域から派遣されたチームに業務を引き継ぐ形をとっているという。

これを考えると、地元の薬剤師もきちんとローテーションを組み、薬剤師自身も体力、健康維持に努める必要がある。

現場もなんとか回り始め、急性から慢性疾患の処方が出始め、医療のニーズも上がってくる。

ここで薬剤師も医療現場に参加し、スムーズかつスマートな医療の土台作りから橋渡しまで行う必要がある。

ニーズに出来るだけそった薬剤の確保。  
しかしながら全てを受け入れることは業務の複雑さを生むため、必要最小限の薬剤を提案していくこと。  
看護師のトリアージ、問診は大変重要な業務だ。  
薬剤師はその業務に同伴し、お薬手帳や問診での薬の予想、薬自体のトリアージ、同効薬や違った規格、剤形で備蓄してある物の処方提案するなど、業務効率、質の向上に寄与できると思う。

現場で大学の後輩にあった。  
ニット帽にマスクの私に気づいてくれた。  
嬉しかった。  
でも、思い出してみればここは彼の地元。  
すぐ色んな事が頭をよぎった。

（ここからはすごく葛藤があったが、実際に被害にあった方の状況を伝えたかったので、敢えて書きます）  
彼は語ってくれた。  
仙台に嫁を残して、薬の卸の車に乗ってここまで来た。  
実家は流されてしまった。  
家族にまだ不明者がいる。  
でも地元の避難所の力になりたい。

そんな事を微塵も感じさせず、明るく働く彼を尊敬し、彼の思いに乗せて被災地の復興を心から願う。

「ゆうたくん。  
この辺り少し落ち着いたら、地元の手い寿司おごっから！」